

番号	2 - 8	申請者	小児科医師 藏田 洋文
【審査申請課題】 感染が契機となりペランパネル中毒に至った1男児例			
【審査課題の概要】 症例は15歳男児で、片側巨脳症、難治性てんかんのため、14歳時にVPA, CLB, LCMに加えてペランパネル(PER)を開始した。感染症罹患時に遷延する意識障害を認め、PER血中濃度が著明に増加していた。CYP3A4により代謝されるCLBやLCMなど、他剤の血中濃度に変化はなく、NCSEや中枢神経感染症、急性脳症は否定的であった。PER中止後に意識障害の改善がありPER中毒と診断した。 過量服薬以外にPER中毒の報告はなく、大変重要な症例であるため論文報告する。			
審査結果	承認 (令和2年6月22日)		